

講演 4

進化する高等教育の質保証

独立行政法人 大学評価・学位授与機構

特任教授

川口 昭彦

進化する高等教育の質保証

歯学教育認証評価WGシンポジウム
大学評価・学位授与機構 特任教授
川口昭彦

評価(質保証)文化の定着と進化する高等教育の質保証

- ③ 評価(質保証)文化と進化する評価(質保証)
- ③ 大学機関別認証評価の検証結果および機関別評価と分野別評価の相違点
- ③ 高等教育の質保証
- ③ 国際通用性のある(社会的説明責任を果たす)質保証

評価(質保証)文化とは

- ③ 評価情報を自ら価値づけ、次の活動を選択していくこと。
- ③ 評価結果に基づいて、諸活動の改善・向上を図り、説明責任(アカウンタビリティ)を確保することは、社会的な流れとなっている。
- ③ 評価(質保証)の考え方、内容、方法などは、社会的環境の変化とともに、「進化」しなければならない。

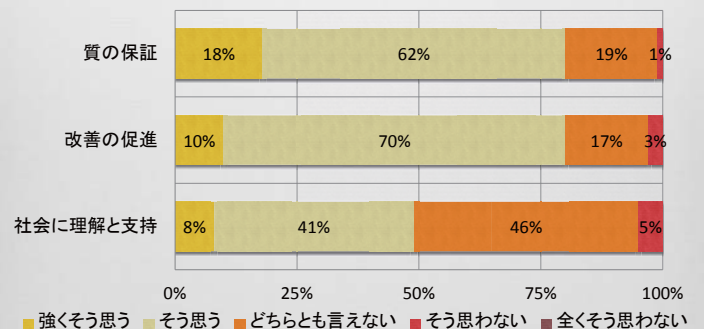
認証評価

- ③ 機関別認証評価
 - ③ 機関全体(大学院、大学、短期大学、高等専門学校)が対象となる。
 - ③ 7年ごとに評価を実施する。
- ③ 専門分野別認証評価
 - ③ 専門職大学院が対象となる。
 - ③ 5年ごとに評価を実施する。
- ③ 認証評価以外の分野別評価:薬学教育、リハビリテーション教育、工学教育(JABEE)、医学教育

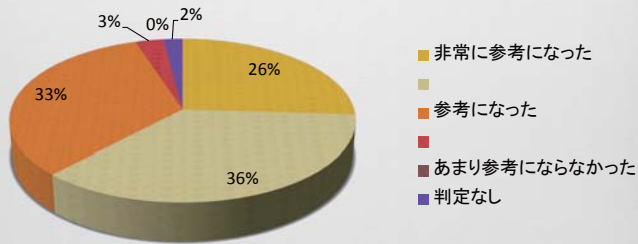
認証評価の目的

- ③ 教育研究などの諸活動の質を保証する。
- ③ 諸活動の質の改善・向上に資する。
- ③ 諸活動について社会的説明責任を果たす。
 - ③ 第三者評価機関が果たすべき社会的説明責任:大学が実施している諸活動の質の現状分析と保証
 - ③ 大学自身が発信する情報だけでなく、第三者評価機関による評価結果も不可欠な情報である。

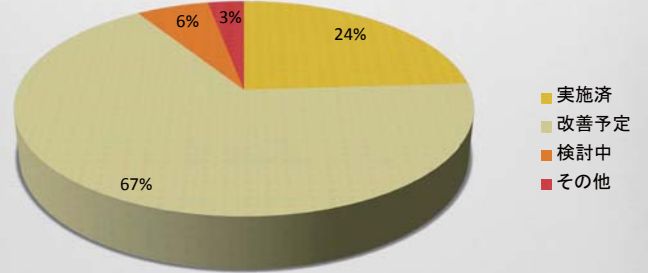
機関別認証評価の目的達成状況



機関別認証評価結果の活用 (参考の程度)



機関別認証評価結果の活用 (改善取組状況)



認証評価の効果・影響

- ③ 教育研究活動等について全般的に把握
- ③ 教育研究活動等の今後の課題を把握
- ③ 教育研究活動等の改善を促進
- ③ 評価の考え方や評価方法に関する教職員の知識や技術が向上
- ③ 将来計画の策定に役立つ

認証評価の課題

- ③ アカウンタビリティ(社会に成果を示す)と改善(質の向上に反映させる)という機能の両立は難しい。
- ③ インプットとプロセス(アクション)に関する基準が、学習に関するアウトプットの測定やアウトカムズの分析より、はるかに重要視されている。
- ③ 最低基準の指標が、卓越性志向の基準より、広く使用されている。

次元の異なる評価対象

	具体的内容
インプット (投入)	教育研究活動等を実施するために投入された財政的、人的、物的資源をさす。
アクション (活動)	教育研究活動等を実施するためのプロセスをさす。計画に基づいてインプットを動員して特定のアウトプットを産み出すために行われる行動や作業をさす。
アウトプット (結果)	インプットおよびアクションによって、大学(組織内)で産み出される結果をさす。
アウトカムズ (成果)	諸活動の対象者に対する効果や影響も含めた結果をさす。学生が実際に達成した内容、最終的に身につけたもの、刊行された論文の効果や影響などである。

「質」に関する理解

- ③ 決まった基準で判定する質であり、多様性という考え方が入る余地は少ない。質とは、欠点がないこと(zero defects)を意味する(製造業)。
- ③ 欠点を最小限にすることのみならず、顧客に不満がないという視点が入る。質とは、顧客満足(consumer satisfaction)を意味する(サービス業)。
- ③ 高等教育における質とは??

質保証するための視点

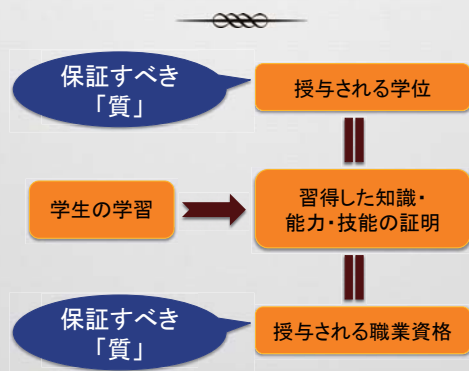
- 卓越性(高い水準の質)
- 基準に対する適合性
- 目的に対する適合性
- 機関の目標の達成度
- 関係者の満足度

高等教育の質とは？

〔将来像答申(2005年1月28日)〕

- 保証されるべき「高等教育の質」とは、教育課程の内容・水準、学生の質、教員の質、研究者の質、教育・研究環境の整備状況、管理運営方式等の総体を指すものと考えられる。
- 高等教育の質の保証は、行政機関による設置審査や認証評価機関による評価のみならず、カリキュラムの策定、(中略)情報開示等のすべての活動を通して実現されるべきものである。

保証すべきは学位・職業資格の質



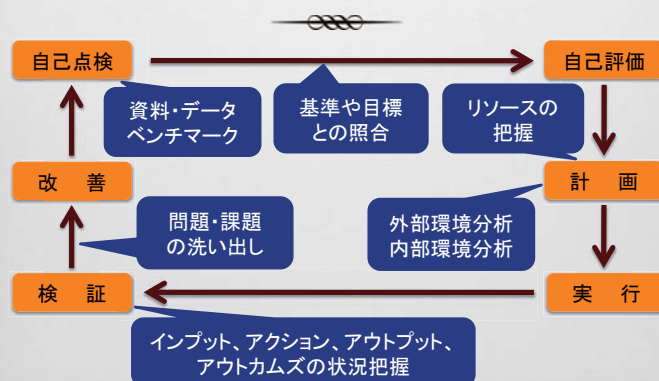
高等教育の質保証システム

- 内部質保証:** 第一義的に機関(組織)自身の責任である。
- 外部質保証:** 設置基準、設置認可(事前規制、最低限の水準を保証・確保)、認証評価(事後チェック、適格認定と教育研究の質の向上を促進)
- 内部質保証は、各機関(組織)が独自の考え方に基づいて実施しても、社会から観て理解できないこともある。内部質保証にも、ある程度共通的な基準や指標が必要である。

内部質保証システム

- 自主・自律を標榜する大学は、自らの責任で諸活動について点検・評価を実施し、その結果に基づいて改革・改善を図る必要がある。
- 大学の質を自ら保証することができる内部質保証システムを構築することが不可欠である。
- 認証評価の役割は、そのシステムが機能しているかどうかを第三者機関として検証する。
- 内部質保証システムが十分機能していることが、自律的組織体としての証明である。

内部質保証システムの概要



高等教育のパラダイム・シフト

- ③ 「教育パラダイム」から「学習パラダイム」へ
- ③ 「教員の視点に立った教育」から「学生の視点に立った学習」へ
- ③ 「何を教えるか」より「何ができるようになるか」
- ③ 「授業内容や教育方法の改善」から「学習の質が向上したか、学習成果があがっているか」へ
- ③ いかに学習成果を測定するか？ いかに説明責任を果たすか？

学習成果とは？

- ③ ある学習過程を終了した時に、どのような知識、技能そして能力を獲得することが期待できるかに関するステートメント（ECTS Users' Guide）
- ③ 教育を語るための国際共通言語（あるいは国際共通通貨）

高等教育のジレンマとブレイクスルー

- ③ 高等教育パフォーマンスを表わす指標の一つとしての所定年限内の卒業率（あるいは在籍率）
- ③ これと卒業（修了）者の質（教育達成レベル）を両立させることは簡単ではない。
- ③ 卒業率と教育達成レベルを同時に高く保つか、これが高等教育のアウトカムズであり、教育機関の知恵の絞り所である。

質保証の最重要課題は学習成果

- ③ 教育 = 教授 (Teaching) + 学習 (Learning) であり、学生の学習成果 (Learning Outcomes) について社会に明示することが重要である。
- ③ 期待される学習成果 (Expected Learning Outcomes) を明示する。
- ③ その学習成果の達成状況 (Achieved Learning Outcomes) を定期的に分析する。
- ③ その分析結果を社会に向けて発信するとともに質の改善・向上に資することが求められる。

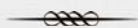
専門職大学院認証評価（例）

- ③ 評価基準に基づく評価
 - ③ 基準1 目的および入学選抜
 - ③ 基準2 教育課程
 - ③ 基準3 学習成果
 - ③ 基準4 教職員組織等
 - ③ 基準5 学習環境
 - ③ 基準6 教育の質の改善・向上
- ③ 学習成果を中心とした評価
- ③ 大学院の個性の伸長に資する評価
- ③ 自己評価に基づく評価
- ③ ピア・レビューを中心とした評価
- ③ 透明性の高い開かれた評価

国際的通用性のある質保証のキーワード

- ③ 「アウトカムズ(学習成果)の質」を保証する。
- ③ 「卓越した質」を保証する。
- ③ 「国際通用性のある」 = 「社会的説明責任を果たす」

参考文献・資料



- ③ 大学評価・学位授与機構大学評価シリーズ『大学評価文化の定着－日本の大学教育は国際競争に勝てるか？』独立行政法人 大学評価・学位授与機構編著 ぎょうせい 2010年5月
- ③ 『進化する大学機関別認証評価－第1サイクルの検証と第2サイクルにおける改善－』独立行政法人 大学評価・学位授与機構ウェブサイト
- ③ 大学評価・学位授与機構大学評価シリーズ『大学評価文化の定着－日本の大学は世界で通用するか？』独立行政法人 大学評価・学位授与機構編著 ぎょうせい 2014年3月予定

ご清聴ありがとうございました。